

CJL 総合科目群 オンライン化のための研究プロジェクト

寅丸 真澄・久保田 美子・木下 直子・井下田 貴子
大久保 雅子・久保 圭・濱川 祐紀代・三好 裕子
吉田 睦・吉田 好美・武田 誠・鄭 在喜

設置主旨

本プロジェクトの目的は、日本語教育研究センター（Center for Japanese Language, 以下、「CJL」）における総合科目群の日本語科目を整理し、授業内容に応じてオンライン授業として設置、提供できるように改編することである。本プロジェクトにより総合科目群のオンライン化が実現すれば、日本語学習者（以下、「学習者」）に対して、授業内容に応じた授業形態の日本語科目が提供可能になるとともに、海外在住の学習者をはじめ、国内学習者に対しても、学習者個々の需要に応える多様な学習形態の日本語教育を提供できるようになる。その結果、早稲田大学の授業の質の向上と国際化、学習者の多様化に貢献できると考える。

1. プロジェクトの目的

本プロジェクトの目的は、CJLにおける総合科目群の授業を整理し、授業内容に応じてオンライン授業として設置、提供できるように改編することである。

CJLでは2020年度に本プロジェクトの構想を固め、着手した。本学では、COVID-19の影響でオンライン授業が拡大した2020年以前より、授業の質の向上のため、オンライン授業を取り入れていくことが提唱されていた。そのような本学全体の流れとCJLに在籍する多様な学習者ニーズへの対応、及び他キャンパスの学習者等、遠隔地にいる潜在的学習者に対する学習機会提供の必要性から、本プロジェクトは着手された。本プロジェクトにおいて学習内容に適した授業形態を検討し、オンライン化を実現させることで、学習内容にふさわしい授業形態の授業が提供可能になる。また、海外在住の学習者をはじめ、国内学習者に対しても、学習者個々の需要に合った多様な学習形態の日本語教育を提供できるようになる。その結果、早稲田大学の授業の質の向上と国際化、学習者の多様化に貢献できると考える。

なお、本研究プロジェクトにおける「オンライン化」とは、これまで対面のみであった総合科目の授業形態を、オンラインを使用した多様な授業形態に改編することを意味している。具体的な形態としては、オンデマンド授業と対面授業により構成されるハイブリッド型授業、オンデマンド授業とオンラインリアルタイム配信授業により構成されるハイブリッド型授業、オンラインリアルタイム配信のみの授業があり、科目の特性により、その授業形態は異なっている。

2. 2022年度までの活動実績

本研究プロジェクトの土台となる総合科目群のオンライン化プロジェクトは、2020年度秋学期に構想され、対象科目を決定した。対象科目は、「総合日本語1-6」、「入門日本語」、「会話1・2」、「漢字1-5」の全14科目である。

2021年度は、各科目で使用する教材を選定した。また、「総合日本語1-4」においては、総合科目の授業内容の一部である文型学習をオンデマンド化することを決定し、文型学習用動画教材（「総合日本語1・2」は英語、「総合日本語3・4」は日本語で作成）の作成を開始した。文型学習用動画教材とは、これまで教員によって行われていた文型の導入と説明を動画化した教材である。学習者は本動画を視聴し、Moodleに設置されたワークシートやクイズ類を活用することによって文型理解を深め、動画で学習した文型の運用練習と各種活動を行うことが期待される。一方、「入門日本語」は、週当たりの時限数や教材の選定も含め、具体的なコース内容の検討を開始した。また、「会話1・2」は、2021年度までにオリジナル教材を完成させた。「漢字」は、2020年度より徐々にオンライン化を進め、「漢字3」の教材を完成させた。

2022年度には、CJL研究プロジェクトとして正式に承認され、文型学習用動画教材及び授業教材（ワークシート、課題、クイズ類）の作成を進めた。「総合日本語1-4」の文型学習用動画教材については、2021年度に作成した文型スライドの修正作業と、説明用音声の SCRIPT の作成、音声収録、動画編集とその修正を行い、2022年度末に完成した。その後、それらの動画教材及び授業教材を本学LMSのMoodleに設置した。「総合日本語5・6」では、レポート作成のための説明用動画の試用版を作成し、内容の調整を行った。「入門日本語」では、コース内容に即した教材作成、英語によるオリエンテーション動画、仮名の説明用動画を完成させた。「会話1・2」は、2023年度の音声収録のための準備を行った。「漢字」は「漢字1-3」に続き、「漢字4」の授業教材を完成させた。

3. 2023年度の活動実績

2023年度は、「総合1-4」をはじめとする全科目においてオンライン授業に必要な動画教材と授業教材を設置し、運用を開始した。特に「総合日本語1-4」では、オンデマンド授業と対面授業とのハイブリッド型で運用を開始し、春学期終了後に運用状況及び学習者の学習状況について、担当者全員で振り返りを実施した。振り返りの結果、対面授業とオンデマンド授業の連携、及びレベル間のアーティキュレーションが課題とされたため、秋学期の授業に向けて文型学習用動画教材と授業教材の調整と修正を行った。また、対面授業とオンデマンド授業の教員の連携を図るなど、ハイブリッド型授業の円滑な運用に向けての対策を試みた。「総合日本語5・6」では、2022年度に準備したレポート作成のための説明用動画教材の試用版を作成し、試用を行った。「入門日本語」では、試作した教材を運用し、調整と修正を行った。「会話1・2」では、各課のモデル会話の音声収録とイラストの修正を行った。「漢字」では、「漢字1-4」の実績を踏まえ、「漢字5」の教材を完成させた。

寅丸真澄・久保田美子・木下直子・井下田貴子・大久保雅子・久保圭・濱川祐紀代・三好裕子・吉田睦・吉田好美・武田誠・鄭在喜／CJL 総合科目群オンライン化のための研究プロジェクト

4. 2024 年度の計画

2024 年度は、「総合日本語 1-4」では、文型学習用動画教材の誤表記等の修正を行う。「総合日本語 5・6」では試用版で確定した内容でスライド作成及びナレーション音声の編集を行い、運用版を作成する。また、CJL においてアカデミック・ジャパニーズ教育を強化する観点から、「総合 5・6」で開発中のレポート作成教材に加え、「総合日本語 3・4」においても教材開発を行うこととなった。そのため、「総合日本語 3-6」の各レベルにおいて、レポート作成のための教材開発が計画されている。

「会話 1・2」及び「漢字 5」では完成教材を運用し、教材の調整と修正を行う。「入門日本語」では、学習項目の量と「総合日本語 1」など隣接する初級科目とのアーティキュレーションに懸念があるため、関連科目とのアーティキュレーションを高めるための見直しを行い、それらの問題点の改善に寄与する新教材の開発に着手する。

5. 研究成果の還元

本プロジェクトは、次の 4 点において CJL 事業に還元できると考える。

- ①学習者の需要に応えるための授業のオンライン化は、本学全体の方針であり、ICT 化が進む教育界の要請でもある。CJL は、本プロジェクトの実施により、大学及び教育界の要請に応えることができる。
- ②総合科目群のオンライン化が推進されれば、これまで授業への参加が困難であった海外、あるいは早稲田キャンパス以外のキャンパスで学習する学習者に対して日本語学習の機会を安定的に提供することができる。
- ③国内外の学習者に対して、個人の学習スタイルに適した学習形態での日本語学習を提供することができる。
- ④副次的な効果として、CJL にとって長い間深刻な課題とされてきた教室不足を解消することができる。

(とらまる ますみ, 早稲田大学日本語教育研究センター)
 (くぼた よしこ, 早稲田大学日本語教育研究センター)
 (きのした なおこ, 早稲田大学日本語教育研究センター)
 (いげた たかこ, 早稲田大学日本語教育研究センター)
 (おおくぼ まさこ, 早稲田大学日本語教育研究センター)
 (くぼ けい, 早稲田大学日本語教育研究センター)
 (はまかわ ゆきよ, 早稲田大学日本語教育研究センター)
 (みよし ゆうこ, 早稲田大学日本語教育研究センター)
 (よしだ むつみ, 早稲田大学日本語教育研究センター)
 (よしだ よしみ, 早稲田大学日本語教育研究センター)
 (たけだ まこと, 早稲田大学日本語教育研究センター)
 (ちょん じえひ, 早稲田大学日本語教育研究センター)